

2020年10月末現在

組合員 4276人

出資金 1億6599万円

9～10月の動き

組合員 新規加入51人

退会21人



西濃医療生活協同組合

医療生協



第119号

2020年11月10日発行

(奇数月発行)

〒503-0982 大垣市久徳町153-1

TEL 0584-92-3268

ホームページ seinou.coop

編集 機関紙編集委員会



4地区に分かれて 総代会議を開催

あわせて86人が参加

今年6月に開催した第19回通常総代会は、コロナ禍により小規模開催を余儀なくされました。今年度上半期が経過し、中長期計画をふまえた重点課題の取り組みと経験の交流、今後の課題について討議することを目的に、4つの地域に分かれて総代会議を開催しました。

大垣西地区(西・赤坂・宇留生地域)と北東地区(揖斐・神戸地域)は10月25日の午前と午後、西南地区(不破・西濃南部地域)、大垣東地区(中央・北・東・南地域)は11月1日の午前と午後それぞれ分かれて開催し、総代、支部運営委員、理事など86人が参加しました。

松岡専務理事から重点課題の取り組みと今後の課題報告、支部より活動報告がそれぞれ行われ、質問、意見など全体で討議を行いました。

せ い り ゅ う

「学術会議会員任命拒否」と
「自助の社会保障」

菅政権が発足して一か月足らず、驚くことが起っています。菅首相による、日本学術会議会員候補6名の任命拒否です。示された理由は、「総合的、俯瞰的な活動の確保」のみです。6名は、学術会議会法に定める「優れた研究または業績」を有さず、総合的、俯瞰的な活動を害する者だと、首相自らが烙印を押したわけです。まるで中世の専制君主の振る舞いです。しかも推薦された全員の名簿は見えていないと平然と言うには恐れ入ります。権力欲だけは旺盛なうえに、無責任さも桁外れです▼このような暴挙に出た「胸の内」を推測してみました。「政権を批判するような、けしからん連中を、国費で維持する組織や機関に置いておく必要はない。何人かを見せしめて排除すれば、うるさい連中も黙らせることができる。文句があるなら、組織自体を解体すればよい」こんな偏狭で、下品で、かつ危険な思想が見えてきます。これによって、菅政権は、学問や科学を無視・軽視し、あるいは敵視する本性を白日に晒しました。学問や科学は、人類全体が長い歴史の中で培ってきた知的、思想的営みの集積物です。一国の最高権力者が、公的機関への任命拒否という陰湿な方法で、科学者

を排除・攻撃する事態は重大です。それは、長い歴史のなかで培われてきた、知的、思想的営みを無視し、敵視することです。当然に、それは社会保障の理念や制度にも及んできます▼国際的な社会保障理念は、「世界人権宣言」(1948年)などに集約されています。日本の社会保障の権利および理念にも継承されています。それは、憲法25条「基本的人権としての生存権保障」、及び「社会保障の国家責任」に結実しています。菅首相は傲慢にも、「自助が第一、最後に共助(社会保障)・公助。これが国の形」と繰り返しています。人類が長期に渡る苦難の歴史のなかで築き上げてきた社会保障の権利と理念への挑戦宣言です。いわば「人類知」の敵視という点で、学術会議会員任命拒否と軌を一にするものです▼こういう政権は、社会保障を変質・解体させる動きを、ますます強めるでしょう。病气や要介護は自己責任、安易に医療や介護の世話になるな、という掛け声も強くなるでしょう。しかし、大げさですが、真の社会保障の実現は人類史的課題、これこそが真理です。社会保障を歪曲したり、形骸化したり、解体しようという企てに未来はありません▼医療生協は事業や運動を通じて、社会保障の権利と理念の実現をめざします。その自覚が、改めて求められています。

木村隆之



西濃医療生協の現状や課題について、熱心に質疑や意見交換が行われました。



中長期計画に基づく
今年度方針（3つの重点課題）
について、4地区会議で討議

最初に理事会を代表して松岡専務理事から報告と提起がありました。

第2次中長期計画の3つの柱（安心のまちづくり、最後まで自分らしくを支える医療・介護活動、これらを推進する組織の拡大・強化）をふまえた今年度方針について説明があり、まず医師確保が最重要課題であること、次に健康で安心のまちづくりをすすめること、とりわけ班やサロンの活動とたす

けあいのNPO法人化、相談活動の充実、そして憲法と平和をまもる活動。これらをすすめるために、組織を強く大きくしていくことを、この間の実践例をあげながらの報告がありました。

続いて、それぞれの参加支部から活動報告が行われ、コロナ禍のもとでの自粛、休止から活動を再開し、組合員から待ち望んでいたとの発言が共通してみられました。

討議では、次のような質疑や意見が出されました。

○コロナ禍のもとで、医療機関の経営が大変厳しいと聞か、しずさと診療所はどうか。

もともと医師体制が弱まったことから厳しい経営であったところに受診控えや感染対策での経費が増大し、かつてない赤字をうんでいるが、回復傾向にあり、下半期の予算達成を目標に取り組んでいきたい。

○診療所から遠い地域では診療所利用ができなくて加入のお誘いがしにくい。

遠くて利用ができなくても、健康講座に同じ組合員である医師など医療や介護の専門家に来てもらって、相談もできるのが大きな特徴であるし、健康づくりをととした人とのつながりができることが魅力だと思っている。

このほかにも、たすけあいNPO化、診療所の無料送迎、支部の拠点づくりなど意見交換ができました。

秋の「生協強化期間」 つながりづくりで、 たすけあい・支えあいの 輪を広げよう

昨年度は、健康班会やサロンの開催数が年間267回開催、のべ2376人の参加で、ともにこれまでを大きく上回りました。班会やサロンが単に健康づくりだけでなく、つながりやが深まり、「なんでもおしゃべりができる人ができてよかった」という声が多く寄せられました。

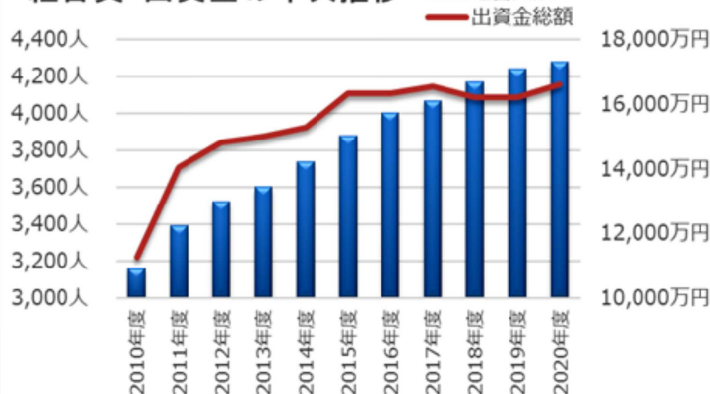
今年は、コロナ禍のもと自粛で休止状態が続きましたが、夏ごろから再開され、元気な声や笑顔が戻ってきています。「感染対策をしっかり」と、フレイル予防もしっかりと健康づくりとつながりづくりが広がっています。現在、28の班やサロンのうち22の班・サロンが活動をはじめ、のべ700人（月平均100人）の組合員が参加しています。

毎年9月から12月にかけて行う「生協強化期間」では、①仲間ふやし、②出資金ふやし、③班づくり、④担い手ふやしを「全国4課題」として、全国の医療生協が取り組んでいます。当生協でも、コロナ禍のもとで休止していた班やサロン、組合員訪問などの地域での活動が再開されるなかで、つながりが復活し、仲

間ふやしや増資の運動も進みつつあります。仲間ふやしでは、8月までは1か月で1ケタだった新規加入が、9月20人、10月30人と仲間ふやしが進んできています。出資金ふやしでは、「エコ増資」に140人の組合員の皆さんから500万円の増資にご協力いただきました。担い手ふやしでは、支部運営委員、機関紙手配りの配達員、たすけあいの担い手など加わってきていただいています。

皆さんの力で、健康班会づくり、班会参加・仲間・出資金・担い手をふやし広げていきます。

組合員・出資金の年次推移



よく使われる漢方薬のご紹介①

こむらがえりには

シャクヤクカンゾウトウ 芍薬甘草湯

漢方薬には西洋薬にない効能のある処方がある。初回は、芍薬甘草湯をご紹介します。最も単純な組み合わせとなる二味（二種類）の漢方薬です。これはこむらがえりなど筋肉の痙攣に効きます。即効性があり、飲んだら直ぐに効いてきます。山歩きなどアウトドアスポーツには欠かせません。

シャクヤクは、「立てば芍薬座れば牡丹歩く姿は百合の花」と言われる美しい花で、ファッションブランドのKENZOでもモチーフとなった花です。この根が使われます。

カンゾウはマメ科の植物で、やはり根が使われます。漢方薬の他、甘味料として食品にも使われています。

私は毎週のように山に出かけていますが、足がつって（痙攣：けいれん）うずくまっている登山者に時々会います。まずは、痙攣している筋肉を伸ばす方向に関節に力をかけるよう伝えます。ふくらはぎや太ももの後ろなら、手でつま先を膝の方向に引っ張ります。太ももの前なら、足首をつかんで膝を強く曲げてやります。それから芍薬

しずさと診療所医師 粕谷志郎

粕谷先生の漢方薬シリーズを掲載します。先生は、今年6月から月曜と水曜の午前診療を担当しています。



甘草湯2包を差し上げます。1包で不十分なら引き続き2包目を使用しても構いません。次の峰で再会した方もおられ、完全に回復されたのでしょうか。実は、私自身も痙攣で動けなくなったことがあります。遭難とはならず、無事下山出来ました。

熱中症で起こる痙攣もありますが、こちらは水分と塩分（ナトリウム）の補給が優先です。汗の量と摂取した塩分量を判断する必要があります。この場合の痙攣にも芍薬甘草湯は有効との報告もありますが、優先すべき対応の次です。

芍薬甘草湯は3世紀初頭の書物『傷寒論』に記載されています。日本では弥生時代になります。シャクヤクだけ、カンゾウだけでは効果がありません。驚くべき発見と言えます。この処方に対応する西洋薬はありません。夜間に突然足がつるという方には寝る前に服用していただきます。

ただし、甘草には漢方の代表的な副作用のひとつがあります。むくみや血圧上昇、筋力低下などがあつたら血液中のカリウムの低下が無いか検査する必要があります。副作用は大量、長期、女性、高齢での服用による発症が多いようです。

**この冬
不調を感じたら
まずは電話でご相談を**

診療所事務長 中村英洋

冬期の体調不良については自治体からの案内や、新聞・テレビなどで様々なお知らせがあります。最も大切なのは、体調不良を感じ、医療機関に受診したいと思ったときには「まず、電話で医療機関に相談すること」です。

この冬は新型コロナウイルスとインフルエンザが同時に流行することが懸念されています。その理由は、この2つの病気の主要な症状（発熱・咳・倦怠感等）がほぼ同じで検査を実施する以外に見分けることが困難なためです。さらに、この検査の非常にやっかいなことは、検体を採取する際に、マスクを外していただく必要があります。鼻やのどに刺激を与えることで咳やくしゃみが発生しやすく、その際に発生した飛沫で医療従事者が感染する危険性が非常に高いことです。

厚生労働省は、しずさと診療所を含めた地域の開業医に対し、発熱患者を受入れ、新型コロナウイルス検査および

インフルエンザ検査を安全に実施することを求めています。検査を実施するための条件として①発熱した方と一般の患者さんを別々に診療できること（空間的・時間的）、②検体検査を安全に実施出来る設備と備品が潤沢にそろっていること、③そのための人的体制が整っていることを挙げています。しずさと診療所では特に①③について現状では課題があり、院内での検査実施には対応することが困難です。

しずさと診療所では、熱があり、検査が必要な方からのご相談を頂いた場合、検査の実施出来る医療機関を電話で案内するか、地域の検査センターを案内するという対応を予定しています。組合員さんからの医療的な要望にお応えできないことは大変心苦しいところではありますが、その他の大勢の慢性疾患を抱える患者さんたちへの医療を途切れさせることなく提供し続けることも大変重要な役割であると考え、右記のような対応を行うこととしました。

繰り返しますが、体調不良を感じたときにはまずは電話でご相談をいただくようよろしくお願いいたします。

不破支部健康講座

「満州引き揚げ体験を語る」
に参加して

9月27日垂井町中央公民館で「満州引き揚げ体験を語る」満蒙開拓団の悲劇」という講演会



が開催されました。今回は西濃南部支部のみなさんの参加もあり、全体では37名でした。

講師は語り部として活動されている池田町在住の北村栄美さんです。7歳で満州に渡り、過酷な体験を経て12歳で引き揚げて来られたそうです。貴重なお話を伺うことができました。

毎年、夏になると終戦間近の空襲や原爆、沖縄の悲惨な出来事はテレビや新聞で見聞きしますが、満蒙開拓団のことは中国残留孤児や引き揚げ船の話くらいしか知りませんでした。

広い土地がもらえる、兵役が免除になるなどの言葉で満州へ渡った人たち。国の政策で人の

盾として送られたにもかかわらず、状況が悪くなるとこの人達を見捨てて逃げ出した無責任な政府軍。

満州での生活は苦しい毎日だったと話されました。食べるものがなく、病気になっても薬もなく、子どもを亡くす母親の気持ちを考えると胸が痛みました。

敗戦後はソ連軍の侵攻や現地住民による略奪や襲撃に毎日恐怖との戦いだったそうです。今でもまだ苦しんでおられる方がいらっしやいます。このような悲劇を起こさないために、もっとたくさんの人に聞いて欲しい話でした。本当に戦争は残酷です。

北村美世子

中央支部

大垣ケーブルテレビが取材

中央支部は班活動の一つとしてスクエアステップを毎月第1木曜日大垣市老人福祉センターで楽しく取り組んでいます。

松岡律子さんをインストラクターに迎え、2016年4月にスタートしました。コロナ禍で会場が使えなかった3月〜5月を除いて毎月集まっており、48回目を迎えた10月1日、大垣ケーブルテレビの取材を受けました。マスクをつけて、いつもの通

り準備体操からスタートし、時間いっぱい楽しくそして真剣に取り組む、ストレッチで終わりました。その様子をケーブルテレビのスタッフはカメラを回し続け、終了後は個人インタビュー。ちょっと緊張した1時間でした。



げんきの会
スクエアステップ

毎月第1木曜日
午前10時〜11時
老人福祉センター

大橋保子

大垣ケーブルテレビ放映画面から

健康委員会

「アレルギー疾患と
漢方医学のお話」

10月5日(月)。しずさと診療所にて、粕谷志郎先生の座談会がありました。

待合室いっぱいにあふれる参加者。次々に出る質問にも粕谷先生は、一人一人に丁寧に答えてくださり、ありがたく、感謝の気持ちでいっぱいになりました。

講話の中で、「コロナウィルスにどう対応するか」

①日本人はBCG接種を受けているので、その抵抗力を持っているかもしれない。

②「補中益気湯」が免疫増強に期待できるらしく、感染予防につながる可能性がある。

「核兵器禁止条約」が発効

当条約は2017年7月に国連総会で賛成多数により採択され、この10月24日に条約発効に必要な批准国が50か国に達し、来年1月22日に発効することになりました。核兵器の全面的な禁止を謳っており、核兵器廃絶に向け大きな一歩を踏み出しました。

「被爆者はすみやかな核兵



西洋薬の効き目の良さや、アレルギーのように、体質にも依るところがあるなど、示唆に富むお話を聞くことができました。

この会に参加して、私は人間は、「人と人との間で人間になる」ということお互いに忘れないでいようと思いました。

山田七緒子

器廃絶を願ひ、核兵器を禁止し廃絶する条約を結ぶことをすべての国に求めます」と呼びかけて始まった「ヒバクシャ国際署名」が大きな原動力になりました。

一方、唯一の戦争被爆国である日本政府がこの条約に批准・署名しない意向を示しています。日本が批准・署名する運動を継続していきましょ

(M)

日本医療福祉生協連発行の月刊誌11月号に、3ページだてで掲載されました。



講師の大橋京子さん

ヨガの基本は、調息・調心・調身（息＝呼吸を整え、心と体を整えること）です。自然と一体になるのが理想で、窓から庭が見え、鳥の声や雨の音が聞こえるこの場所はとてもいい環境です。

ここで覚えたことを、みなさんが1つでも2つでもいいからご自宅で行ってほしいと思います。でも、それより大切なのは、みんなで集まってお話をすること。それが“心のサプリメント”だと思います。

高齢者にやさしいヨガ班会

無理はせず、自分のできる範囲で体を動かすヨガです。椅子に座ったままでもOK。ヨガ歴40年の講師・大橋京子さんが、参加者一人ひとりの様子を見ながら、メニューを進めています。



赤阪支部

日本医療福祉生協連の月刊誌

『コムコム』の取材を受けて

コロナ禍のなか、3月から6月まで班会はすべて中止。7月より会場使用の許可があり、7月にはスクエアステップ班会、8月よりヨガ班会を再開しました。

した。

コムコム誌より取材の申し出があり、8月末のウォーキング班会のおしゃべりタイムで話し合った結果、「えっ、なんで私たちなの？」と言いつつも取材を受けることになりました。さっそくこれまでの参加者に取材の話をしながら声をかけ、当日はあいにくの雨にもかかわらず16人の参加がありました。

コムコム誌からは男性記者と女性カメラマンの2人。その日はいつもとは違った雰囲気の中、講師の大橋京子先生の元気のいい声でスタート！緊張感はありません、いつもより真剣さがあるふれた班会となりました。取材などはほとんどの方が初めての体験で、カメラマンがいろいろな方向から撮影される姿や小気味良いシャッターの音には圧倒されました。

健康サロンで取り組んだヨガ教室に参加された方々から「楽しかった！」と要望があり、始めたこのヨガ班会も早いもので4年目になりました。今では準備から後片付けまでみんなで楽しくやっています。

いつ終息するかわからないコロナ禍で不安はいっぱいありますが、この取材を受けてあらためて人と人とのつながりの大切さを学ぶことができました。

『コムコム』11月号、ご希望の方は本部へお問い合わせください。

班長 玉井千登枝

西濃南部支部

おしゃべりウォーキングに参加して

10月13日。南部支部の班会「養老・海津のポールウォーキング」に行きました。何よりも健康第一を願っている今の私。とても楽しいおしゃべりウォー



キングが出来ました。

自然の中をおしゃべりしながらのウォーキング、これこそが心と身体にとって最高の幸せ健康づくりではないでしょうか。昼食は各自持参のおにぎりです。

自慢になってしまいそうですが、海津市は山あり、森あり、川ありの自然に恵まれた地域です。その中でウォーキングができたことに感謝しつつ、これからもぜひ続けていきたいと思っています。これからも仲間の皆さんよろしくね。ありがとうございました。

笠嶋

健康委員会

こんなときだからこそ、一緒にやろうよ！健康チャレンジ みなさまの参加お待ちしております！

5回目となる健康チャレンジを、今年度も2月と3月に計画しています。コロナ禍での運動不足解消には、班やご近所さん、お友達といっしょに屋外でのジョギングやウォーキングに出かけましょう。

外出自粛で人に会えない不安などがある中、心身の健康を保つため、ぜひ多くの方に参加していただきたいと思います。

「運動」「食」「口の健康」「脳トレ」「禁酒・禁煙」「快適な睡眠」「肥満の改善」「私の健康法」という8つのコースからやってみたいコースを決め（いくつでもOK）、一人でもグループ（家族、近所の人、班会の仲間など）でも、頑張ってみましょう。

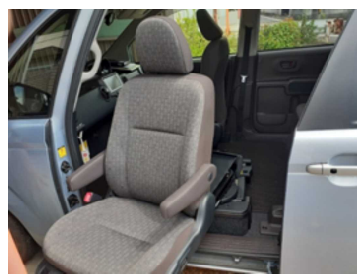
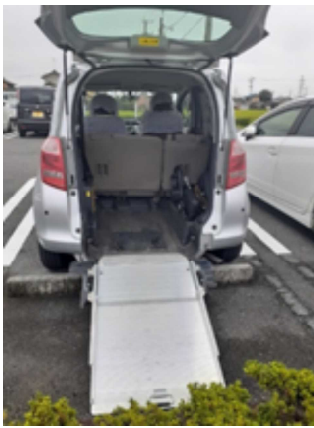
今回は、診療所に行く機会のない人や提出先がわからない人でも参加しやすいように、チャレンジカードを返信用ハガキにするなど工夫をします。げんき1月号に折り込みますので、ぜひご参加ください。

しずさとすけあい通信

NPO法人化に向けて

医療生協のたすけあい活動の一形態として、2016年1月から、有償ボランティアによる有料の日常生活支援活動として「しずさとすけあい」をスタートしました。この間、草取りや電球交換、買い物代行など、日常の困りごとの解決に役立ててきました。

さらに、昨年より福祉有償運送に取り組み始め、これまでの「たすけあい」をより発展させるために、来年にNPO法人設立をめざすこととし、医療生協とし



↑助手席回転いすシート
←車いすのまま乗れるスロープ

てこの「たすけあい」を支援していく方針を決めました。

本紙前号で、NPO法人設立にむけた寄付金や車両の寄贈をお願いしたところ、福祉車両の寄贈が2台、のべ80人から70万円を超える寄付金など、あたたかいご支援をいただき、大きな期待が寄せられていることを実感しています。

この活動にご理解・賛同いただき、あらためて心よりお礼申し上げます。

引き続き、会員募集、寄付金を募っていますので、皆さまのご支援・ご協力をよろしく願います。

「福祉輸送」「生活支援」の担い手募集

福祉有償輸送の担い手（運転手）は、「運転者講習修了証」を取得するために、2日間の講習を受講する必要があります（講習代は法人が負担します）。講習会の詳細はお問い合わせください。

「生活支援」の担い手は随時登録可能です。

担い手は有償です（規定に基づき活動手当を支給します）。どちらの活動も休日や空いている時間など都合に合わせて短時間で担い手活動ができます。

先ずは下記までお気軽にお電話ください。

ご利用・登録・寄付のお問い合わせは
☎ 080-3645-3268 (山口)
受付時間：平日9時～12時まで

西濃社会保障推進協議会

秋の西濃地域2市9町懇談会を実施

毎年実施している自治体懇談会が10月から始まりました。

国保、介護、福祉医療・高齢者福祉等について、市町の担当者と懇談をしました。以下、特記すべき事項について報告します。

高校生までの窓口負担無料化が広がっています。今年度は大野町が実施（ただし入院のみとしており、外来医療費についても無料化することを要望しました）、また安八町が来年度の実施に向け検討を始めています。実施が決まると、西濃圏

域では、1市8町が実施することになり、未実施自治体は、海津市と養老町のみとなります（現在岐阜県下では16市町で半数以上が西濃地域で実施していることになりました）。

国保料（税）に関しては、コロナ禍の減収による減免実施件数が全体に少なく、住民への周知徹底をはかることを要望しました。

窓口一部負担（3割負担）の減免に関しては、今年度で11自治体すべてで実施要綱等が策定されました。しかし、この間、相談件数が1件のみで、実施件数はなく、これについても周知徹底をはかることを要望しました。

われない選択肢こそ大事だと話され、納得。

「コロナ危機の中で未来を展望する」
大阪市立大学准教授 斎藤幸平さん
『資本論』など読んだことないわたくしが果たして理解できるかと恐る恐る臨んだ講演だったが、最後まで興味深く聞くことができた。

温暖化対策で二酸化炭素の排出削減が求められる中、わたしたちはマイバッグやマイボトルを持ったり、エコを謳う製品を買ったりして努力している気分になっているが、それは今まで通りの生活が続けるための免罪符でしかないと言われ、耳が痛かった。確かに部屋を見回すと物があふれている。エコなものを選択して買うのではなく、買

「脱成長型経済」で豊かさを取り戻そうというのはわかる。このコロナ禍の自粛で経済成長は止まったが、家族で過ごす時間が増えて心の豊かさを得た人は多かったという事実がある。しかし、これが続いたら経済は破綻するとも言われている。はて具体的に私たちは何をすればいい？ 一人ひとりができることは微々たるものだが、グレタ・トゥーンベリさんのようにたった一人でも声をあげ続けることで、世の中を動かしている例もある。

小さな声でも政治を変えることができると勇気をもらって帰った。

山河由美子

西濃南部支部

広幡スクエアステップ班へのお誘い ～認知症予防とおしゃべりの場～

日 時 11月15日(日) 10時より
12月20日(日) 10時より
どちらも1時間位行います。

場 所 養老町広幡公民館 和室
(養老町口ケ島19-1)

持 物 タオル・飲み物

参 加 費 無料

問合せ先 長屋由利子 080-1612-4387

※どなたでもお気軽にお越しください。

※朝の検温とマスクの着用をお願いします。

不破支部

紅葉の関ヶ原古戦場巡りウォーキング

日 時 11月28日(土) 小雨決行
集 合 9時30分 関ヶ原ふれあいセンター
解 散 13時30分
持 物 弁当・お茶・敷物
行 程 島津の陣跡から開戦地決戦地をめぐり石
田三成陣跡の笹尾山(標高268m)へ
徳川家康陣跡、陣場野公園から集合場所
へ戻る約6kmのコース

問合せ先 伊藤 0584-22-5719 山河 0584-22-4316

ウォーキングの会

日 時 11月16日(月) 雨天中止。

場 所 願成寺古墳群巡り

池田山の麓の6～7世紀に造られた願成寺古墳群
≪横穴式石室の円墳≫を見学します。霞間ヶ沢から
大津谷公園までのウォーキング≪往復約8km≫で、
美濃の国守護・土岐一族の墓や菩提寺にも寄ります。
※教育会館集合者は、配車調整のため杉野または梅
村まで事前に連絡ください。

集合場所 教育会館 8時30分

しずさと診療所 8時30分

池田温泉・道の駅トイレ前 9時00分

会 費 200円+交通費200円

持 物 弁当・飲み物・雨具・登山靴または運動
靴・防寒具

問合せ先 杉野茂樹 0584-34-1817

梅村民雄 0584-34-1403

090-4232-9057

赤坂支部 健康サロンの案内

「笑って 動いて 認知症予防」

日時 11月19日(木) 10時より

場所 岐阜大学旧早野邸セミナーハウス

会費 無料

講師 田邊三千代さん

認知症ケア指導管理士・認知症予防学習療法士・
介護福祉士

西濃医療生協元職員の田邊さんを講師として招いて
認知症予防のお話を聞きます。体を動かしてクイズ、
簡単な計算、音読などもある笑って楽しく学べるサロ
ンです。

マスク着用でどなたご参加できます。気軽に会場ま
でお出かけください。

連絡先 宇津時雄 0584-91-2379

グラウンドゴルフで楽しく健康づくり

実施日 11月12日(木) 17日(火) 24日(火) 30日(月)

12月11日(金) 17日(木) 23日(水)

時 間 いずれも12時半から

場 所 三城公園 ソフトボール場

問合せ・申込先 河村秀一 090-5450-3227

神戸支部

毎年開催してきました恒例のもみじ狩りは、コロナ
のため中止いたします。

無料

暮らし何でも相談会

多重債務(破産・再生・任意整理)、離
婚・親権、遺産相続、交通事故、労働災
害、医療事故、消費者被害、損害賠償な
ど。提携弁護士がご相談をお聞きします。

日時: 12月10日(木)

1月14日(木)

各午後1～3時

場所: しずさと診療所内

○相談時間: 30分

○事前申込みが必要です。

本部電話 0584-92-3268

職員紹介

しずさと診療所

理学療法士 山田陽一



9月16日より理学
療法士として入職し
ました。
以前は愛知県の津
島市にある施設で働
いていました。
今までの経験も生
かしつつ、地域の皆様が笑い溢れる生活を
送っていただけるように、リハビリを通じ
て少しでもお手伝いさせていただいたら幸
いです。
皆様、ご指導をよろしくお願いいたしま
す。

豪雨災害義援金のお礼

7月豪雨災害への義援金にご協力ありがとうございました。9月14日までで合計72,242円のご協力をいただきました。義援金は診療所加盟の民医連をとおして、被災地に贈られます。

また、日本医療福祉生協連では全国から寄せられた義援金の内、60万円を岐阜県に贈呈することを決め、11月12日に県庁内にて贈呈式を行う予定です。

コロナ感染防止対策への寄付金のお礼

第1波以降マスクなどが不足する中で、診療所・介護事業所に手作りマスクを届けていただいたり、寄付金を頂戴するなど、組合員の皆さまから温かい支援をいただきました。感染対策用品の購入に活用させていただきました。心よりお礼申し上げます。

「エコー増資」ご協力のお礼

今年6月に買い換え導入しましたエコーに対し、これまでに140人を超える組合員の皆さまから500万円の増資協力をいただきました。コロナ禍のもとで医療機関の経営が厳しい中、財務基盤強化ともなっており、厚くお礼申し上げます。

なお、目標の600万円達成に向け、引き続きご協力をお願いいたします。

インフルエンザ予防接種 予約休止について

診療所事務長 中村英洋

この度は予約の電話が大変混み合い、ご不便をおかけして申し訳ありませんでした。

10月21日(水) 17時をもちまして入荷予定ワクチン本数(約2,800名)分の予約が埋まったため、やむを得ず、予約受付を休止いたしました。

ワクチンの追加購入の手続きを進めておりますが、入荷の目処は立っておりません。再開する場合は、ホームページ(<http://seinou.coop/>)でお知らせする予定です。

ホームページを見ることができない場合は、11月中旬頃に診療所(0584-93-1170)にお問い合わせください。恐れ入りますが、電話は平日14時以降でお願いいたします。

診療所・介護事業所の草取りボラ に皆さまのご協力をお願いします

日 時 11月15日(日) 8:00～

雨天の場合11月22日(日) 8:00～

集合場所 しずさと診療所

問合せ先 正岡礼子 0584-27-5957

<しずさと診療所> 年末年始の休診は、 12月30日(水)～1月3日(日)です

しずさと診療所 診療案内 内科・外科・整形外科・リハビリテーション

		月	火	水	木	金	土
8～9時	検査	柄澤	柄澤	柄澤		柄澤	
9～12時	第一診察室	柄澤	柄澤	柄澤	柄澤	阿川	※3
	第二診察室	粕谷	鷲見	粕谷	※1	※2	
14～17時	訪問診療	柄澤	柄澤	柄澤	柄澤 岡野	柄澤 阿川	
17～19時	第一診察室	柄澤		泉		阿川	

※1 木曜日の第2診察室

第2・4を岡野医師が担当します。

※2 金曜日の第2診察室

柄澤医師が検査(胃カメラ・エコー)を行います。

※3 土曜日の診療

第1・3は岡野医師が担当します。

第2・5は柄澤医師が担当します。

第4は松井医師が担当します。

※研修医を受け入れ

9月から12月にかけて、研修医が外来・訪問診療等で研修を行いますので、ご協力をお願いします。

<医療・介護のお問い合わせは>

▼しずさと診療所

電話 0584-93-1170 FAX 0584-93-1169

〒503-0982 大垣市久徳町153-1

▼デイサービスひのき

電話 0584-93-0310 FAX 0584-93-0311

〒503-0981 大垣市松町706

▼介護センターしずさと

電話 0584-91-3912 FAX 0584-93-1151

〒503-0981 大垣市松町1452

・介護支援センター 0584-93-1171

・デイサービスセンター 0584-93-1172

・訪問看護ステーション 0584-93-1173

・ショートステイ 0584-93-1175